

LA 立教会だより

Volume 2, Issue 4

www.larikkyokai.com

February 2009

会長からのご挨拶

孫恵美(昭和 43 年史学科卒)

会員の皆様、良い新年をお迎えになった事と存じます。新しい大統領・オバマ氏の就任式も終わり、今までのアメリカから大きく change をすることを国民一同が期待をもってスタートを切った 2009 年です。厳しい状況にある今、この困難を乗り越えるために、一人一人が何をすればよいのかを問われる年でもあるようです。

昨年は、9 月にピアノ コンサート開催、10 月には池袋立大キャンパスで行われたホームカミングデーに有志の方々のご協力をもって、クリスマスをテーマにした LA 立教会のブースを出すことができました。11 月にはこちらで例年通り Town & Gown 主催によるフェブリックリースと着物着付け教室の会をいたしました。2009 年も楽しい催しを企画いたしておりますので、皆様是非ともご参加ください。

校友の方の LA 訪問もありました。8 月には立教大学の職員、原正福氏が語学研修で UCLA にみえました。9 月には同窓生堀田御夫妻が S.F.と LA で朗読会をなさいました。11 月下旬から 3 月まで、立大 4 年生の辻君が語学留学に LA にいらしております。日本とアメリカが年々近くなり、多くの校友の方が今後 LA を訪問されるのではと感じております。

立教会便りもちょうど二年になりました。一年に二度の発行で、しかも素人が製作いたしておりますので、なかなか皆様のご期待に沿うことが出来ませんが、LA 立教会会員の皆様との、ひとつのコミュニケーションの手段となれたら良いと思っております。会で行っていることを皆様にお知らせすることをはじめとして、なかなかお目にかかれない会員同士の親交を深める役割をも担いたいので、皆様からの近況、読后感想文、旅行記、レシピ等 どんどんお送りください。また、会報係をして下さる方を探しております。お手伝いして下さる方は孫までご連絡下さい。皆様と 3 月 29 日(日)の総会でお目にかかれますのを楽しみにいたしております。

今年もどうぞよろしくご指導くださいますよう、お願いいたします。

<2009 年行事予定>

3 月 29 日(日) 総会

多聞

都ホテル二階 バンケットルーム
328 E.1st Street, Los Angeles, CA 90012
213-617-7839

11 時半より 2 時半まで
豪華賞品の当たるクイズ大会開催
同封のフライヤーをご覧ください。

6 月 27 日(土) 食事会

Simon's Café モロッコ料理

4515 Sepulveda Blvd., Sherman Oaks,
818-783-6693

Simon's Café の紹介が丁度 1 月 28 日の LA Times Food Section に載っておりますので少しご紹介します。

上井貴代子(昭和 34 年英文科卒)

モロッコ生まれのユダヤ人である Owner/Chef のサイモンさんは、日本語が大変お上手、それもそのはず、日本の神戸で初めてのモロッコ料理店を 17 年間経営し、奥様は日本人、彼の料理は大変美味しく日本人の口に合います。小さい時から料理が好きで、イスラエルにある Club Med のフレンチ料理長のアシスタントをつとめ、そこで料理の腕を磨いたそうです。

彼はとても気さくで、フレンドリーで、キッチンから出てきて、お客様に挨拶し、オーダーをとり、メニューを説明し、モロッコ独特の TAGINES 料理をテーブルに自ら運んでくれます。

この小さなエレガントなモロッコレストランはちょっと面白いところにあります。

405 と 101 が交差するフリーウェイのすぐ下にあり、入り口は Sepulveda Blvd に面していますが、裏にパーキング・ロットがあり、このパーキングへの入り口を見逃すと間違っってフリーウェイに入ってしまうのでご注意ください。

お勧め料理もたくさんありますが、Eggplant stewed in ginger syrup なんていう美味しい、珍しいデザートがあるんです。お楽しみに。

8月8日(土) ヴァイオリンとピアノのコンサート
Union Church, Little Tokyo, 2時開演
401 E. 3rd St., Los Angeles, CA 90013
Violinist : Silvian Iticovici
Pianist : Hiroshi Taguchi

このコンサートは女子大生に奨学金を送ることを目的とした会、AAJUWとの共催で、2009年の立教大学創立135周年記念募金へ、ならびに現役学生LA訪問の際のファンドレイジングとして行います。チケットは\$15です。

ピアニストの田口寛氏はLA立教会で2度演奏していただき、ご存知の様に素晴らしい演奏家です。ヴァイオリニスト Silvian Iticovici氏は Saint Louis Symphony Orchestra で Second Concert Master として活躍されております。

100枚のチケット完売を目指しておりますので、ご友人たちにも是非お声がけをして頂きたく、皆様のご支援をお願いいたします。

11月21日(土)または22日(日) Town & Gown 主催

場所：未定

小林陽子さん(平成8年卒)講師によるクレイ作品

<2008年度行事報告>

2008年9月20日(土)

ピアノとフルートによるコンサート

柿本正子(昭和42年英文科卒)

9月20日に孫会長のお宅で、ピアニストの田口寛氏とフルートの豊田房子さんをお招きして(ミニ)コンサートと夕食会を催し、LARKの会員とその友人を含めて11人が集いました。

田口氏は93年に渡米し、ニューヨークのMANNES音楽院で修士号、メリーランド州立大学で博士号を取得、その後、世界中で演奏活動を行い、国際コンクールの審査員や大学で後進の指導にも当たって活躍している方です。

当日はモーツァルト、ショパン、リストと華麗な、またとてもハードなテクニックを要する曲目を次々と披露して頂き、対照的に豊田さんの繊細でやさしいフルートの音色が緊張感を和らげ、大きな劇場ではとても味わえない迫力を身近に感じながら、素晴らしい演奏会を楽しませて頂きました。

その後会長が用意して下さった何種類もの美味しい

中華料理に舌鼓を打ち、皆様が持って来てくださったデザートやフルーツを頂きながらの歓談もとても盛り上がり、心も味覚も満たされたとてもよい会でした。

私達のために気持ちよくご自宅を開放して下さった孫会長に心からお礼申し上げます。

2008年10月18日(土)

日米交流ロサンゼルス朗読会

孫恵美

NPO法人日本朗読人協会と耳文庫主催による日米交流ロサンゼルス朗読会が10月18日、小東京にある曹洞宗北米別院禅宗寺にて行われました。日本朗読人協会理事の堀田謙一郎氏(38社卒)と舞台朗読人紀真氏(39社卒)はともに立教大学の校友です。

初めて朗読会というものに参加し、息の使い方、間の取り方、声の強弱、声の色? 全体の中に作られている流れ、まさにArtを感じました。曲のついていないオペラです。大変素晴らしい体験をさせていただきました。堀田ご夫妻にお礼を申し上げます。LA立教会からは私一人の出席で、それがとても残念でした。

2008年10月26日(土)

ホームカミングデー

孫恵美

10月26日(土)立教大学池袋キャンパスにて、第46回ホームカミングデー・校友の集い、が開催されました。今年公開トークに服部幸應氏「食育のすすめー大切な物を失った日本人ー」、映画鑑賞「ハッピーフライト」、立花隆氏による講演会・トークセッション、旧江戸川乱歩邸・土蔵の公開、ソフトボールやフットサル大会の他オープンマーケットなど、校友の方々が楽しめる盛りだくさんの企画でした。参加者数は5000人とのこと。キャンパスのあちこちでサークルの仲間達や同窓生同士が楽しそうに歓談をしていたのが印象的でした。老若男女が立教大学という共通項で集まり、秋の一日を学生時代に戻っているかのように感じました。校友課のご好意で今回ブースを出すことが決まり、短い準備期間ではありましたが、Town & Gownの有志の皆様のご協力で、クリスマスツリー36個とリース28個を手作りし、販売する機会をいただきました。この売上純益はLAを訪問される現役学生(3年に一度訪れる事になっている硬式野球部の学生も含めて)、のための基金の一部といたします。売上2,040ドル、1,000ドルちょっとの純益となりました。

興味深い催し物が沢山ありましたが、10時から3時まで

でのお店番?で、残念ながら拝聴したり拝見することが出来ませんでした。立教のあのなつかしい雰囲気を感じる存分楽しんでまいりました。この時期に日本訪問をお考えでいらっしゃる会員の皆様は是非とも参加されますようお願いいたします。



2008年11月23日(日)

Town & Gown: Fabric Wreath と着物着付け教室
劉さちこ(昭和39年社会学部卒)

感謝祭とクリスマスがもうすぐという11月16日(日)孫会長のお宅でファブリックリース作りと着物の着付け教室という盛りだくさんの行事が行われました。朝10時にはリース作りを教えてくださいの麻田理恵さんがキルティングに使うような色とりどりの生地を配色よく用意しておいてくださいました。そのなかから自分の好きな色の布を選び小さな四角に切って、リースの台に挿していくのですが出来上がった時にはとても素敵な作品になりびっくりしました。

お昼はおいしいお弁当を食べながら皆さんと色々なお話をするのも楽しいひと時でした。午後は日本舞踊の先生渡辺喜久子さんと2人のお弟子さんによる着物の着付け教室で実際の着付けの他にも和服のしきたりや手入れの仕方などを色々教えていただきました。皆がそれぞれの着物を着たときには部屋中がとても優雅になったようで日本の着物のよさを改めて実感しました。この日の行事は楽しいだけでなくとても有意義なものでしたので1日があっという間に過ぎてしまい、この会の企画をして下さった方々に感謝しながら帰宅の途についたのは4時すぎでした。参加者は渡辺さんのお弟子さんを入れて11名でした。



立教大学野球部を迎えて

前ロサンゼルス立教会会長
水谷重男(昭和30年英文卒)

ロサンゼルス立教会が、立教大学硬式野球部のアメリカ遠征に関わる様になった経緯を、「LA立教会だより」の紙面を使って、会員の皆さんにお話して欲しいと言う、編集者の希望に答えてお引き受けしたのですが、事の始まりは10年も前の話なので、失念した部分もあり、パズルの絵を組み合わせる要領で、思い出の一片を集めて頑張ってみます。

1930年代に実施された立教大学野球部アメリカ遠征の歴史は、第二次世界大戦を基に中断され、日米野球の親善試合は歴史の幕を閉じたが、近年、野球部先輩、現役選手達の中から、日米スポーツ交歓の復活を実現させようと言う声があがってくる様になった。日米大学野球の実力の差を確かめたいと言う願望が、アメリカ遠征計画促進と言う形で台頭して来たのであろう。

「失礼ですが!ロサンゼルス立教会の水谷さんですか?」と声を掛けられたのは、校友会全国代表者会議の一環として開催された懇親会パーティー会場でのことでした。大角会長が、アメリカの市民権を取得する申請を提出して、まもなく面接テストの呼び出しが来ると言う時期だったので出席出来ず、当時は、未だ副会長であった私が会長代理として出席していました。そこには既に、会議の冒頭で紹介された文学部長、渡辺憲次教授、立教大学硬式野球部部長が、私が現れるのを待っておられたのでした。

「御相談が有ります。実は、来年の野球部遠征プログラムをアメリカ西海岸で実施したいと考えているのですが、お知恵を貸していただけませんか。」というお話で、ロサンゼルス、及び、サンフランシスコをベースにした、2週間ほどの遠征プログラムが計画されていることが伝えられました。私は、即座に「喜んで協力させていただきます」と二つ返事で協力を申し出てしまいましたが、その依頼の重要性を考えると、そう安易に引き受けられることではないことでした。

まず、部長教授の話では、60名以上となることが予測される野球部員の宿舎となるホテルの確保、予約、そして、これは何処でも良い訳ではない。フィールドと練習設備が備わっていなければならない。宿舎からフィールドまで、地理的に便利なところが望ましいのは当然のことながら、野球の練習に必要な備品、日常生活必需品の購入、外食の場に便利であることなども、立地条件としてあげられる。

偶に、テレビでプロ野球の試合を見て得た野球のルール程度の知識しか持ち合わせていない自分にとって、ベースボールの練習の為のお膳立てをすることは、至

難の業であることは自明の理である。しかし、平然と野球部部長の御願いを引き受けてしまったからには、ただ全力投球有るのみの心境であった。



大阪産業大学ロサンゼルス校の宿泊施設に、遠征期間中の予約が取れたのが弾みとなって、同大学中島校長の紹介を頂き、日本のプロ野球でも活躍した事のある、元

メジャーリーガーのレジー・スミス氏に立教の野球教室を開催して頂くことを了承して貰ったのだった。野球部で、早速私からの情報を検討した結果、監督他、旅行社の担当者が、宿泊施設、及び、期間中の練習場となる、ピラス・カレッジの下見、並びに、レジー・スミス氏にコーチを御願いすると言う決定を伝えるにロサンゼルスに来ることになった。

一番問題になるのがグラウンドであったが、下見の結果、ピラス・カレッジのグラウンドは、広さ、芝の状態などの隅々まで、大変手入れが行き届いていることが分かり、外野までの距離も大学野球では充分の広さがあるということも確認出来た。これで、アメリカ遠征の一行を迎える用意も略大詰め近づいて来たが、一番気になる親善試合のスケジュールはどうなっただろうか。NCAA 規約によれば、シーズン中に許されるリーグ戦以外の対校試合の数が問題となるのだそうだ。

私の心配をよそに、親善試合を申し込んであった Stanford University と UCLA からは、早々と了承する旨の返事を貰った。これで、私のすべき事は終わったんだと安堵の胸を撫で下ろしたと言うのが、正直な感想だったが、一番大切な事を忘れていた。LA 立教会の幹事として、私のアシスタントをしてくれる人が居ないことに気が付いた。副会長である私の他には、正式には、会計担当の武井氏が居るだけである。野球部のロサンゼルス滞在期間中だけで良いのだが、私と共に日常の活動の円滑な進行を助けてくれる人が欲しいと思いながらも、遠征は開始された。遠征隊の行動が活発化するに従って、雑用が多くなり、自分1人では手に負えなくなって行った。そんな時、会員の坂本さんが手伝って下さると名乗りを挙げてくれた。又、グラウンド以外では、ミセス大角を中心とする女性陣からの差し入れ等のご協力も得ることが出来た。

こうして、1999年2月19日、60余年ぶりに立教大学硬式野球部のアメリカ遠征が復活し、その年の東京六大学秋季リーグ戦に於いて9年、18季ぶりの優勝を果たした。

時まさに学院創立125年、野球部創立90年の節目の年であった。

アメリカ遠征での親善試合の結果

2/22	立教	4-12	スタンフォード
2/26	立教	8-3	ピラスカレッジ
2/27	立教	10-9	ピラスカレッジ
3/03	立教	9-9	UCLA

<LARK 会員紹介>

インタビュアー：武井・上井・孫
麻田理恵(平成6年仏文卒)記

長畑博介(ながはたひろすけ)氏

「すし一番館」オーナーシェフ
1966年(S41)社会学部社会学科卒

中学、高校、大学と一貫して立教。

3人兄弟の三男で、大学卒業後、お父上の会社に入れるかと期待するも入れてもらえず、自宅でお料理教室を開催されていたお母上のご友人の紹介で東京の半蔵門にある結婚式場・東條会館に入り、ここでフランス料理を中心に様々な料理を4年間修業する。

70年にお父上から航空券を渡され(これで自分に何が出来るか見て来いということだったが、体裁のいい勘当だったとご本人は思っている)渡米。

当時は日本食レストランも少なく、寿司よりも照り焼き・てんぷらが主流だった時代で、調理師免許があった為、職探しには問題がなく、日本人街の知人のレストランで働いて、7年後にオーナーとして Northridge に第1号店を、その後ベンチュラ・ブルバードに第2号店「寿司ヒロスケ」をオープン。そして第3号店として「すし一番館」を Woodland Hills にオープンした。そのうちカリフォルニアロールの出現で、アメリカ人が寿司を食べるようになり、さらに健康食志向も広がって、開店前から行列が出来るほど寿司がアメリカ人に受け入れられた。「すし一番館」は日本人3%、アメリカ人7%、その他はユダヤ人が主流。

寿司シェフ・レストランオーナーになったのは、お母上譲りか料理好きだった為で、東條会館で修行した事も LA で日本食レストランをオープンした事も、すべて自然の流れで、それ以外は考えたこともなかったそうである。

最後に、アメリカでレストランを成功させた秘訣として「食文化の違いを知る。日本の感覚だけではダメで、たとえば寿司にマヨネーズやわさびをたっぷり使うなど彼らの嗜好を取り入れる。ユダヤ人居住者が多い San Fernando ヴァレーでは、Beverly Hills の様な高級感よりも家庭的雰囲気好み、値段も適当で美味しいと分かれば必ず戻ってきてくれる。『いらっしやいませ/ありがとうございます』という挨拶を大切に」との事。

Sushi ICHIBAN KAN
19723 Ventura Blvd., Woodland Hills, CA91364
Phone: (818)883-8288
Fax: (818)883-8588

佐藤康彦（さとうやすひこ）氏

Hapi Sushi オーナーシェフ
1970年（S45）文学部日本文学科卒

大学で2回留年した為、まともな会社への就職は難しいと思い、東京会館へマネージャーとして入社。

3年後の73年5月、ロスの東京会館へ赴任。しかし、初めてもらった給料が、日本とアメリカで50%ずつしか払ってもらえず、約束が違ふとわずか2ヶ月で退社。求人広告を見て、飛び込みで、韓国系アメリカ人が経営するマンハッタンビーチの「ひばち」という店に入店。そこでもマネージャーを務めるが、独立して自分の店を持ちたいと思い、昼間の空いた時間に他の鮭屋で板前の修行をしながら開業資金を貯めた。そして9年後の83年7月7日に、Laguna Beachに「HAPI SUSHI」をオープン。

Laguna Beachを開業場所として選んだのは、以前訪れたときに「きれいな街だな」という印象が強く残っていた為。Laguna Beachは芸術家の街としても知られる観光地で、国内はもとより世界中から観光客が訪れる。中でも、サウジアラビアからの石油成金の大金持ちがバカンスに訪れ、わずか30分で\$150/一人前の寿司を食べてくれるといった具合で、お客さまからのスペシャルロールのリクエストを聞きながら、次々にメニューを増やして行った。

ロマンティストでユーモアがあり、ジャンルを問わず色々な事を知っている博学の人。

「HAPI SUSHI」

250 Beach St., Laguna Beach, CA92651
Phone: (949)494-9109

塚原吾一（つかはらごいち）氏

ISLAND GRILL オーナー
1972年（S47）社会学部産業関係学科卒

立教高校時代から大学まで通してサッカー部に所属、3年生の時にマネージャーとなる。4年生の時「関東大学サッカー連盟」の幹事長に任命され、当時の加盟校である立教、早稲田、慶応、明治といった強豪校相手の中で、勉強よりも連盟の仕事に忙しく従事。その結果、3月の卒業時まで英語の単位が取れずに就職内定が取り消され、5月に卒業。

ブラブラしていたのをお父上が見かねて、お父上のご

友人の2世の方を紹介され、73年に渡米。語学学校に1-2年通った後、ダウンタウンにあるユダヤ人経営の椅子製造工場に入社。一旦日本へ帰国し、在米時に勤務していた椅子製造会社に部品を輸出していた会社に就職したが、もう一度アメリカに行きたいという思いが募り、79年に再渡米しAlhambraのハンバーガーショップを買い取る。

その後、82年にトーランスに日本食レストラン「本田」（共同経営）、86年にガーデナに居酒屋兼日本食レストラン「吾妻」、89年にラーメン屋「トントンラーメン」をオープン。そして91年に現在の「Island Grill」をLos Alamitosにオープンした。建物が老朽化し、改装しても市のインスペクションを通るかどうかの不安があった為、「吾妻」は繁盛していたが思い切って手放し、01年に「Island Grill」に一本化して現在にいたる。

Island Grill
4390 Katella Ave,
Los Alamitos, CA90720

坂田朝洋（さかたともひろ）氏

鳥料理 “こけこっこ” オーナーシェフ
1981年（S56）経済卒

焼き鳥料理をアメリカに紹介する為に渡米。在米24年目になる。

先輩の一人が当時アトランタでレストランをしており大学4年の夏、Georgia Stateに留学。卒業時、病気になり就職が決まっていた会社のオリエンテーションその他に出られず、断念。そのときにアメリカに焼き鳥を紹介したいと新橋の“鳥繁”に修業に入り、2年10ヶ月という速さで焼き鳥のノウハウを習得。ニューヨークに行きたかったが知人が居らず、“とりしげ”の常連客の一人の紹介でLAにきた。1983にWolfgang PuckがオープンしたAsian FusionのレストランChinoisで4年間chefとして働き、20年前ここLittle Tokyoに”こけこっこ”を出した。お客様は日本人、中国人特に台湾の方が多く来てくださっている。

日本と同じ“焼き鳥”にこだわっており、それが成功に繋がっていると思う。

Rowland Heightsにはチキンカツどん、チキンラーメン、チキンスープといったチキンを使ったメニューのレストランが支店としてある。

鳥料理
こけこっこ
203 S. Central Ave., Los Angeles, CA 90012
phone: (213)687-0690
月一土、ディナーのみ 要予約

<トロント立教会前川会長からのメッセージ>

前川威男（昭和 39 文学部・心理教育学科卒）

カナダ立教会の成り立ちを辿ると、1946 年から 1953 年の間立教女学院のチャプレンを務められ、当時女学院で英語を教えておられた旧姓飛松八千代先生と結婚された今井献先生（立大昭和 11 年卒）のお名前を切り離すことが出来ません。今井先生は 1953 年に、当時のカナダ英国教会の要請で、モンリオールを含むトロント近郊の日系カナダ人のための宣教師としてカナダに赴任されました。もともとは 3 年間の滞在予定で赴任されたようですが、種々の理由でご家族と共にそのまま滞在され、一昨年 2007 年の 11 月に他界されました。



1974 年に今井先生は、当時カナダに住んでおられた関氏ご夫妻（共に立大卒）と語らって、すでに組織されていた八千代先生を中心とする女学院卒業生の集まりを発展させ、当時すでにトロントで活躍していた松本（昭和 39 年卒）氏、色本（昭和 40 年卒）氏などの立大卒業生、高橋氏などの学院卒業生を合流させ、カナダ立教会を発足させました。

その様な成り立ちですからカナダ立教会は、立大卒業生に限らず広く立教関係者、聖公会関係者、ないしは故国を離れて当地で生活する人々とその関係者にとって、人の輪を広げる機会になることを目的に集まりを続けております。

近年では、米国東部に住まわれる方の参加も加えながら、年に 1~2 回の集まりを続けております。参加者の中には、近年増加傾向にあるいろいろな理由での一時滞在、ないしは国際結婚の結果当地に住まわれる若い方々の参加もあり、前述した「人の輪を広げる」機会になろうという目的を幾分かは満たしているように思っています。

数年前には当時も学長であった大橋先生一行をお迎えしたり、昨年の集まり（夏の BBQ）では経営学部のドノバン先生、トロント日系聖公会のウイルソン牧師に参加していただいたりといった具合の活動を続けています。

前川記

<朗読会をなさった堀田紀真さんから>

亡き娘と私のアメリカ朗読ツアー

堀田紀真（昭和 39 年社会学部卒）

私は昨年（2008 年）10 月、自分自身が会得し、表現する「舞台朗読」の可能性を求めてアメリカ朗読ツアーを行いました。それは、沢山の方々と素晴



らしいご縁に恵まれ、予想以上の成果と楽しい出逢いの旅となりました。

私が朗読を始めたきっかけは、8 年前に一人娘を亡くしたことからです。生きる希望も失い、ただ悲しみに明け暮れる日々を過ごすばかりで、それまで従事していた出版関係の会社も辞め、毎日娘の思い出の中に生きるしか方法がありませんでした。四十九日も過ぎたある日、娘の幼稚園時代の担任の先生から送られた一冊の本から一筋の光明を見つける事が出来ました。その本は、詩人であり、作家であり、画家である葉 祥明さんの「心に響く言葉」で、その中に書いてある次のような言葉でした。

『過ぎたことを悔やむのはおやめなさい。人生は常に今日が新たな出発点。毎日すっきりした心でスタートラインに立つのです。うつむいては自分の足元しか見えません。顔を上げて前を見なさい。それが本来のあなたの目の高さ！ 視界が広がったでしょう。次にもう少し上を見てごらんください。もっと遠くが見えますね。それがあなたの夢や理想！いつかあなたが向かう筈の未来です。』

私は、初めて葉さんを知り、実際にお目にかかり、数々の絵や文章によりその人生観に触れ、講演や詩の朗読を聴き、どん底にあった心が少しずつ癒され励まされて、生きる力を頂きました。当時、私達に優しく語りかけられた言葉を今も忘れません。

『お嬢さんにとって、あなたの方が悲しんでいることが一番辛いのです。お二人が仲良く元気に過ごすことを一番願っているのですよ。お嬢さんは、いつもあなたの方と一緒にいます。』

それからしばらくして、日本の名作を声に出して読む「朗読」と出逢ったのです。私は、大学卒業後、民放ラジオ局のアナウンサーをしていましたが、結婚後は一切声を出す事とは無縁の仕事を手伝ったりしていましたので、この「朗読」との出逢いは、娘が導いてくれたのかなとさえ思っています。

そもそも、アメリカで朗読会をやってみようと思ったきっかけは、秋葉玄吾曹洞宗北米開教区総監とのご縁です。秋葉さんは 30 歳まで、私の主人と同じ会社に勤務していて、上司と部下の関係にありました。その後、思うところがおありになって永平寺に入られ、修行をされて今日があるのですが、生前の娘とも接点があって、亡くなった時にはアメリカから駆けつけてくださり、戒名もつけていただきました。そして今年の 7 回忌法要の折、「娘さんの供養を兼ねてアメリカで朗読会をやろう。ロサンゼルスには“耳文庫”という朗読グループもある。」という話が持ち上がり、今年の 2 月から実施の話をしていただいた訳です。実現にあたって、今回ほど人と人とのご縁を感じたことはありません。ロサンゼルスでは、秋葉さんが関係する禅宗寺ホールとスタッフをお借りすることになり、又、サ

サンフランシスコでは、秋葉夫人である好江さんがオーナーであるご縁で、西海岸最大のジャズのライブハウス YOSHI'S での朗読が実現しました。更に、カリフォルニア大学バークレー校の日本館館長とのご縁で、授業での朗読も実現しました。

亡き娘と旅した 12 日間のアメリカ朗読ツアーは、私自身の夢と可能性を広げ、新しい自分を再発見する素敵なチャンスを与えてくれました。

最後に、サンフランシスコとロサンゼルス立教会の皆様には大変お世話になりました。私と主人は二人とも社会学部卒なのですが、母校愛はあっても、卒業以来、大学とは全く無縁な状態でした。でも、主人と同じゼミだった徳光和夫さんや、テレビで毎日のように拝見するみのもんたさん、関口宏さん、古館伊知朗さんの活躍は頼もしく思いますし、時々、六大学野球での母校の成績は気にしています。今回、以前大学の機関紙で海外にある立教会のご活躍を読んだことを思い出し連絡を取らせて頂きました。皆様の暖かい心のこもった応援が、初めてのアメリカ公演でどれだけ元気づけられたことでしょうか。一目お逢いしただけで旧知の友人のように感じられる不思議な感覚は何なのでしょう。同じ大学で学んだというだけで、力強いバックアップを感じました。本当に有難うございました。帰国して、卒業後初めて大学のホームカミングデーに参加しました。そしてロサンゼルス立教会の孫会長、サンフランシスコ立教会の光森会長とお目にかかり、一段と絆が深まったような気がします。人と人との繋がりがこんな形で広がって行く嬉しさと素晴らしさを実感いたしました。

美しい日本語による日本文化の継承と保存に役立つと活動する中で、今回の「日米交流朗読会」は、まさしく私の心の中に生きる日本の名作を読み、美しい日本語を語るといふ夢を実現してくれました。私達のこの小さな流れから日本の文化を共有する仲間が増えて、一度だけで終わることなく、今後も活動が続けられたらと願うものです。

こんなことを言った人があります。「朗読という行為を通じて、ほんの一時だけ憧れの世界に浸るのです。その時間のなんと嬉しいことか」と。

<お知らせ>

金子恒夫さん(昭和 45 年経済卒)が童話を出版いたしました。「Bamboo Princess And The Music Hands Man」

Based on 竹取物語

There are many messages in it such as healing arts for children, body languages, family union, love, respect, etc.

<http://www.amazon.com/>

辻彰一君(立大 4 年生:硬式野球部)が 3 月初旬まで UCLA Extension に語学留学されております。

渡辺喜久子さん(昭和 41 年日文卒)事、若柳久三さんが、3 月 1 日(日)午後 1 時より日系引退者ホームアクティビティーホールにて、新春お舞初め、を開催します。

大学対抗ゴルフ大会への出場者を募っております。多くの会員の方のご参加、よろしくお願い致します。女性のゴルファーの方もどしどしご参加下さい。

詳細は芳我祥二郎さん(平成 1 年卒)までご連絡下さい。
haga@jelimo.com Tel. 310-329-2229

二年間 Town & Gown のお役目をきめ細やかにしていただきました酒井祥子さん(平成 1 年史学卒)が都合で降りられ、柿本正子さん(昭和 42 英文卒)が引きついで下さいました。なお今年の Town & Gown の幹事は、谷上知美さん(平成 8 年法学卒)と小林陽子さん(平成 8 年史学卒)です。

編集後記

初めての会報作成ですのでどうなることかと大変心配でしたが、麻田さん、上井さん、武井さん、坂本さんのおかげで何とか形になりました。毎回会報係が違っており、そのときの係の方のやりやすい方法でしてまいりましたので、会員の方の中には毎回フォーマットが違って見にくいとの向きもおありかと思いますが、いまだ思考錯誤の段階ですとお許しをいただきたいと思います。

次回 8 月号には会員の方からの旅行記を載せたいと考えています。心に残る旅、思いがけないことのある旅、推薦したい旅などありましたら、どうぞ記事を E-mail でお送り下さい。よろしく願いいたします。又、LA 立教会だよりへのご意見やお問い合わせ、又皆様にお知らせしたい事など、どしどしお送り下さい。

今回お忙しいにもかかわらず、快くインタビューに応じて下さいました長畑様、塚原様、佐藤様、坂田様にお礼申し上げます。又遠く日本から堀田様、トロントから前田会長、有難うございました。行事について書いて下さいました劉様、柿本様。そして前会長水谷様にもお礼申し上げます。水谷会長は体調を崩されていらっしやるどころ、会員の多くの方が疑問に思っていた野球部と LA 立教会の出会いという貴重な記事を書いて下さいました。有難うございました。

最後になりましたが、会報係をしてくださる方、また総会での賞品を donate して下さる方は孫までお知らせ下さい。

emi_sun2000@yahoo.com
818-788-4852

孫記